

国内外に評価される 石川県の生物多様性保全に向けた取り組み



景観形成重点地区に指定された能登町の「春蘭の里」

1 里山里海の利用・保全の推進

●生物多様性戦略ビジョンの策定

様々な生きものが網の目のようにつながりながら生きていることを「生物多様性」といいます。私たちの暮らしは、実はこれら生物多様性の恵みによって支えられており、豊かな暮らしを持続させていくためには、この生物多様性の保全が極めて重要です。

石川県には多様な自然環境があり、概して生物多様性が豊かといえます。中でも県土の約6割を占める“里山”は、そこで暮らす人々が手を入れ様々な形で活用することにより豊かな自然が維持されてきた地域であり、多くの生きものの生息地となってきました。古くから人々の生活と深くかかわってきた里海も、本県のいたるところに存在します。

しかしここ50年ほどの間に、都市部への産業・人口の集中と里山里海地域の過疎・高齢化が進み、放置される森林や耕作が行われなくなった水田が増加しており、里山里海の荒廃が見られるようになってきました。

一方、私たちは、里山里海から食料や衣服の原料などの様々な恵みを得ています。輪島塗や九谷焼などの本県が誇る伝統工芸や文化も、この恵みによって育まれてきたものであり、本県の生物多様性の保全や地域経済・文化の発展にとって、里山里海の利用・保全は重要な課題なのです。

このような里山里海に人の手を戻すことが、本県の豊かな生物多様性を保全するために何よりも大切であり、里山里海を持続可能な形で積極的に利用・保全していくための取り組みが求められました。こうした視点に立ち、平成23年3月に策定されたのが、本県の「生物多様性戦略ビジョン」です。同ビジョンでは、「里山里海における新たな価値の創造」、「多様な人材の育成・ネットワークの推進」、「国際的な情報の発信」など、7つの重点戦略を柱に据えて幅広い分野で施策を展開し、自然と人とが共生する持続可能な社会の構築を目指しています。

では、里山里海の利用・保全を進めるために具体的にどのような取り組みを行っているのか、いくつかご紹介します。

●里山里海における新たな価値の創造

本県の里山里海に元気を取り戻すためには、里山里海に人の手を戻し、活用することで新たな魅力を創造し、その魅力がさらに人を呼ぶという好ましい循環を形成する必要があります。

例えば、里山里海の地域資源を活用した生業の創出やグリーン・ツーリズムなどの推進による交流人口の拡大、そして地域の特性を生かした農林水産業の振興など、これらを組み合わせた総合的な取り組みを行うことで、里山里海地域の活性化を図ることが大切です。

また、里山里海に新たな価値をつくり出すためには、具体的な計画を実行する資金が必要です。本県では、地元金融機関の協力を得て、総額53億円の「いしかわり山創成ファンド」を創設しました。その運用益と企業からの寄付金により、多様な主体の取り組みを資金面から支援することを目的としており、里山里海の地域資源を活用した生業の創出などによる元気な里山里海づくりを支援しています。

平成24年度は、「お茶炭」のブランド化によ

る能登製炭業の活性化事業や、特産野菜「湯涌かぶら」の生産振興や商品づくりなど、全部で18の事業が採択されました。

●多様な主体の参画による新しい里山づくり

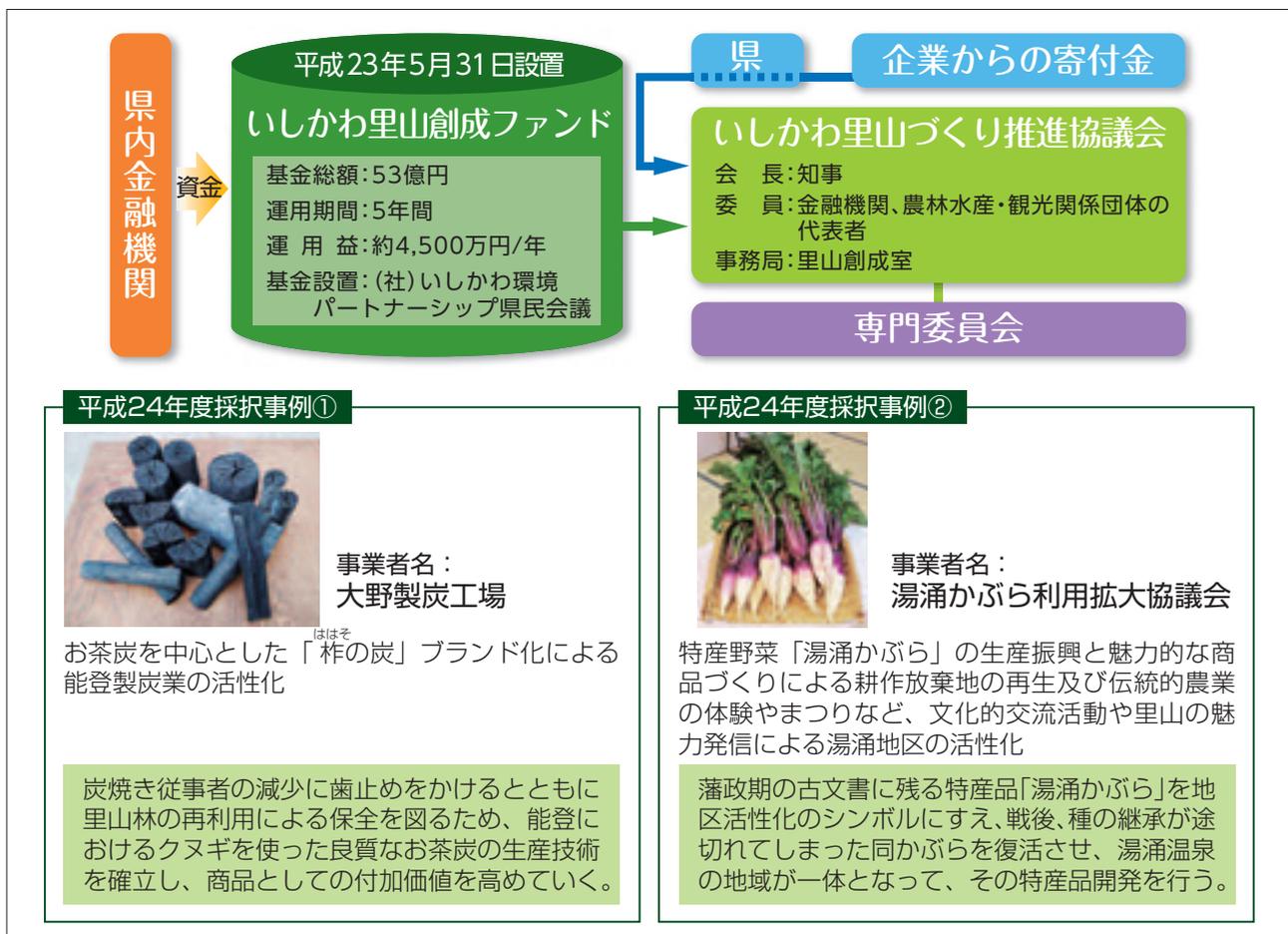
地元の住民や行政だけではなく、都市住民やNPO、企業など、多様な主体が参画する新しい里山里海の創造を推進するための仕組みづくりも進めています。

本県では、平成23年1月、国際規格であるISOの考え方を参考に、「いしかわ版里山づくりISO」制度を創設しました。

これは里山里海の利用保全活動をガイドライン化し、これに取り組む企業などを県が認証し、活動を支援することで、より多くの県民の里山里海づくり活動への参加を促すものです。

平成25年2月末現在で、169の企業、団体、学校等の取り組みを認証しています。

また、いしかわり山創成ファンドを活用した新たな取り組みとして、平成24年5月に、より多くの人々が里山の利用保全活動に参画することを目的とした「里山ポイント制度」を創設し



ました。

この制度の仕組みは、①県や市町、里山づくりISO認証団体などが主催する里山の利用保全活動に参加すると、②参加者には里山ポイントが交付され、③参加者は多くの活動に参加してポイントを貯めると里山チケットと交換できるというものです。里山チケットは、事業に協賛する農産物直売所や地産地消を推進している飲食店等480か所(平成25年1月現在)で利用できます。

平成24年度は、延べ3,800人の方々に活動に参加していただいたところであり、この里山ポイント制度により、自主的な里山の利用保全活動への参加を促進し、元気な里山づくりに繋がっていきたいと考えています。

●多様な人材の育成・ネットワークの推進

新しい里山里海づくりを推進し、地域振興を図るためには、里山里海地域と都市住民やNPO、企業などを結びつけ活動を推進していく人材や、里山里海における農林水産業を担う人材が不可欠です。本県では平成24年6月より、里山里海づくりを推進するために、多様な主体をコーディネートし、地域の課題に実践的に対応できる「里山創造人材」を育成することを目的とした「里山づくりコーディネーター創成塾」を開催しています。各地域の里山づくりを行う上での課題解決に向けた行動計画を作成、実践することを目的とし、県内の里山づくり活動地域での現地検討会、ワークショップなどを行っています。

また、里山づくりのパートナーとして、企業や都市住民などの多様な主体の参画を促進させ

ることで、企業等と里山地域の協働による地域活性化を進めています。企業と里山地域の住民を対象にしたセミナーをそれぞれ開催したほか、「里山と企業等の交流会」を開催し、共同活動に向けた意識醸成を図りました。

●生物多様性の恵みに関する理解の浸透

「生物多様性」という言葉は分かりにくく、その保全の必要性や関わり方についての理解は、十分進んでいないのが現状です。その理解の浸透を目的として始まった活動のひとつが、平成23年5月に津幡町にある石川県森林公園で始まった「MISIAの森」です。

これはCOP10名誉大使を務めた歌手のMISIAさんが、生物多様性保全の重要性を訴えるために開始したプロジェクトです。



「いしかわグリーンウェイブ2012」 in MISIAの森

同プロジェクトでは石川県、津幡町の全面的な協力と、企業の協賛などを受けて森の保全活動を行うほか、アートを通じての生物多様性保全メッセージの発信や、子どもたちを対象とした環境教育プログラムを行っています。平成24年度は、富良野自然塾による環境教育プログラ

保全活動の例



農地・農道の草刈り



里山の森づくり活動

1 里山保全活動に参加

県、市町などが主催する里山保全活動(協議会が認定)への参加

2 里山ポイントを交付

概ね3時間以上の活動に対してポイントを交付



3 里山チケットへ交換



ポイントを集めて、里山チケットと交換

3ポイント → 1,000円相当
5ポイント → 2,000円相当
10ポイント → 5,000円相当



交換した里山チケットは、農産物直売所、地産地消を推進している飲食店など480か所で利用可能

ムの実施や、コナラの植樹などの取り組みを行いました。

2 国際的な情報の共有と発信

●国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットとの連携

生物多様性の保全と持続可能な利用は、決して本県だけの問題ではなく、人類共通の課題であることから、広域的・国際的な取り組みや生物多様性に関連する諸条約、国際プログラムに積極的に参加・協力していくことが求められます。本県では国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットと連携し、国際的な調査研究への貢献、世界の自治体や大学との交流などを通じ、国際的な情報の共有と世界への情報発信にも取り組んでいます。

以下にこれまでに行われた国際会議における本県の関わりを一部ご紹介します。

●COP9、COP10への参加

平成20年5月にドイツのボンで生物多様性条約第9回締約国会議（COP9）が開催されました。本県は、国連大学の要請を受け、谷本正憲石川県知事がサイドイベントに参加、本県の里山里海の利用・保全の取り組みについて講演を行いました。この会議への参加を契機として、本県では「生物多様性戦略ビジョン」の策定に取り

組むことを決定しました。また、平成22年10月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）においても、本県は里山里海の利用・保全を中心とした生物多様性保全の取り組みを世界に発信しています。

●国際生物多様性年クロージング・イベント

国際連合が定めた「国際生物多様性年」であった平成22年は、COP10をはじめ世界中で生物多様性を保全する取り組みや記念行事が行われた年です。その1年を総括するクロージング・イベント（閉年行事）が同年12月18～20日に金沢市で開催されました。

式典では、国際生物多様性年における国連機関及び世界各国の取り組み紹介、COP10及びカルタヘナ議定書第5回締約国会議（MOP5）の成果報告などが行われたほか、平成23年の「国際森林年」への橋渡しのセレモニーも行われました。

●国連生物多様性の10年

国際キックオフ・イベント

平成23年12月17～19日には、国際連合が定めた「国連生物多様性の10年（2011～2020年）」を受けて、COP10で採択された「愛知目標」の達成に向けた機運を国際的に盛り上げるためのキックオフ・イベントを金沢市で開催しました。

同イベントでは、「愛知目標」の達成を目指す「リオ+20と生物多様性に関する石川宣言」が

国連生物多様性の10年
国際キックオフ・イベント記念フォーラム プレゼンテーション

国連生物多様性の10年に向けた石川の実践

～「トキが羽ばたく石川」の実現～

約600人が参加した2日目の記念フォーラムでは、谷本知事が「国連生物多様性の10年に向けた石川の実践～『トキが羽ばたく石川』の実現～」のタイトルでプレゼンテーションし、「生物多様性戦略ビジョン」の策定や「里山創成室」の設置、「いしかわ里山創成ファンド」の創設など、本県の生物多様性保全の推進施策を「石川モデル」として紹介しました。また「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことや、同じく世界農業遺産に認定された佐渡との連携についても報告しました。



コラム

提唱されました。また、各国の代表者や関係団体などが参加する記念式典、記念フォーラム及びエクスカージョンも行われました。

3

世界農業遺産

●世界農業遺産への認定

平成23年6月11日、羽咋市以北の4市4町の「能登の里山里海」が、新潟県佐渡市とともに「世界農業遺産(GIAHS : Globally Important Agricultural Heritage Systems)」に日本国内ではじめて認定されました。

世界農業遺産は、社会や環境の変化に適応しながら何世紀にもわたり持続し、形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性に富んだ世界的に重要な地域を次世代へ伝承することを目的として、平成14年、国連食糧農業機関(FAO)が開始したプロジェクトです。

能登は、地域に根差した里山里海が集約された地域であり、今回の「能登の里山里海」の認定は、その総合力が国際的に高く評価されたものです。いわば能登の農林水産業とそれに関連した人々の営みのすべてが「世界農業遺産」として認定されたのです。



世界農業遺産「能登の里山里海」
ロゴマーク

また、今回の認定の背景としては、平成22年10月、愛知県名古屋市で開催されたCOP10において、「SATOYAMAイニシアティブ」の推進が採択されるなど、近年の里山(SATOYAMA)に関する国際社会の関心の高まりも挙げられます。

●FAO本部への訪問

平成24年5月23日に、谷本知事がイタリア・ローマのFAO本部を訪問した際に、ホセ・グラツィアーノ・ダ・シルバ事務局長らと会談し、「世界農業遺産国際会議」の石川県での開催に合意しました。

この会議では、世界中の世界農業遺産関係者が一堂に会し、各地での取り組み状況の報告や新たな世界農業遺産の認定が行われます。

過去3回は、いずれも各国の首都で開催されていることを考えると、首都以外で初となる本県での開催は、とても意義が大きいと言えます。

また、このFAO訪問においては谷本知事により「能登の里山里海」のプレゼンテーションが行われ、「能登スマート・ドライブ・プロジェクト」など、本県の特徴ある取り組みがFAOから高く評価されました。



FAO本部訪問

コラム // COP11

生物多様性条約第11回締約国会議(COP11)が、平成24年10月8日(月)～19日(金)に、インドのハイデラバードで開催されました。同会議では、COP10で採択された愛知目標の進捗、名古屋議定書の作業計画、海洋・沿岸の生物多様性、多様な主体の参画など、広範な分野についての議論が行われました。

本県では、COP11にあわせて開催されたSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)の関連行事において、本県の取り組み紹介を行ったほか、世界農業遺産に関するサイドイベントにおいて、本県の世界農業遺産アドバイザーであるあん・まくどなるど氏が「能登の里山里海」について発表しました。

●佐渡・能登連携の取り組み

国内でも今回の世界農業遺産への認定を契機とした新たな動きが見られます。平成23年6月に共に世界農業遺産の認定を受けた佐渡と能登は、「トキ」、「里山」の取り組みや過疎、高齢化といった課題も共通していることから、互いに良いものを持ち寄り、学び合い、生かし合うことで、認定を受けた世界農業遺産の価値に磨きをかけることを目的として、「佐渡・能登里山里海連携会議」を設置し、平成24年5月9日に金沢市で第1回の連携会議を開催しました。

年1回、石川県と佐渡市で交互に連携会議を開催することとし、また、子どもたちも含む、あらゆる世代・分野での交流、首都圏でのPR

イベントの共同実施などについても合意しました。

また、平成24年7月17～18日には、農業者交流として、生物多様性の保全と農業収益の向上の両立を目指す「朱鷺と暮らす郷づくり」認証米制度の取り組みを学び、能登における地域農業のあり方を考えることを目的とし、佐渡市へ訪問団を派遣しました。

平成24年8月17～19日には、能登の里山里海が育んだキリコ祭りなどの豊かな伝統文化や自然体験、地元小中学生との交流などを通じて、世界農業遺産認定の価値について理解を深めることを目的に、「佐渡・能登子ども交流」を春蘭の里で実施しました。

佐渡・能登里山里海連携会議

トキと共生する佐渡の里山

the Crested Ibis and Satoyama
トキ 里山

能登の里山里海

平成23年6月、ともに日本で初めて
世界農業遺産に認定

第1回佐渡・能登里山里海連携会議
(平成24年5月9日、金沢市)

農業者交流
(佐渡市)
交流子ども交流
(能登)

連携・交流を通じて、
互いの世界農業遺産の価値を高める

コラム

SAToyAMA イニシアティブ

COP10では、「愛知目標」のほか、原生的な自然環境だけでなく農業や林業などの人の営みを通じて形成・維持されてきた二次的な自然環境において、生物多様性と持続可能な利用の両立を目指す「SAToyAMA イニシアティブ」を推進していくことが採択され、その国際的な推進組織として「SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)」が発足し、本県も創設メンバーとして参画しています。

また本県では、国内における里山地域などの保全や利活用の取り組みの裾野拡大や、質的向上を図るためのネットワーク構築に向けた取り組みを進めています。

佐渡の取り組み、能登の取り組み

交流を通して目指す農業の姿を実感

珠洲市 泉谷満寿裕市長

佐渡との連携・交流を通して、たくさんのことを学びました。そのひとつが環境保全型の農業です。平成24年7月に佐渡で開かれた「生物の多様性を育む農業国際会議」に参加した際、現地の米作りを視察する機会がありました。そこで目にしたのは、従来に比べて農薬と化学肥料の使用を半減する“5割減減栽培”です。生産者とJA、行政が三位一体となり、基準を満たしたものを認証米とし付加価値を高めたり、市独自の個別所得補償制度を整備したりするなど、多彩なサポートに力を注いでいました。

一方、能登では、奥能登の3地域が参加する奥能登棚田ネットワーク協議会によるブランド米作りなどが始まっています。佐渡の事例をお手本に、能登の広い地域で環境にやさしい農業が実践できればと考えています。

もちろん、珠洲市独自の施策も数多く、現在、里山里海の維持・保全の指針となる「地域生物多様性保全計画」の策定を進めています。平成24年度には、珠洲の自然を活用・保全する事業を資金面でサポートする里山里海応援基金を創設したのに加え、地域活動の参加者に市内共通商品券と交換できるエコポイントを付与する制度もスタートしました。

これらの取り組みを通して、素晴らしい能登の里山里海を未来につなげていきたいと考えています。同時に、珠洲市と佐渡を結ぶチャーター船を活用し、広域観光ルートを確立するなど、地域の活性化にも一層、知恵を絞っていきます。



能登との連携が“気づき”につながる

佐渡市農林水産課 渡辺竜五課長

平成24年5月の「佐渡・能登里山里海連携会議」をきっかけに、佐渡市の小学生が春蘭の里（能登町）を訪れたり、能登から農業研修に来られたり、交通面での連携を探ったりと、さまざまな交流を進めています。平成24年7月には、佐渡市で旅館を営む女将さんとともに甲斐元也佐渡市長も参加し、和倉温泉でおもてなしについて学ばせていただきました。

不思議な話ですが、このような機会を通して能登を訪れる中で、佐渡自身の価値に気づくことが少なくありません。GIAHSは景観や物ではなく、地域で受け継がれてきた人々の活動を認定しています。つまり暮らす人にとっては認定された活動が当たり前の日常であり、半面、価値が見えにくくなっていったと思います。それが能登に行き、自然や文化に触れることで、佐渡の特色にも気づくことにつながっています。

私はGIAHSに関わる取り組みを通して、「日本の消費行動を変えたい」と考えています。農業が作ってきたのは、安全・安心な食べ物だけではありません。営みを通して、里山里海の景観、生物の多様性、祭りなどの文化も同時に育んできたのです。この役割に一人でも多くの消費者が気づくことで、国内の農業に新たな価値を見出してもらえると信じています。

その第一歩は、私たち自身が暮らす地域の里山里海をきちんと評価することです。そして、地域の価値を知り、「住んでよかった。子どもにもここで暮らしてほしい」という思いが里山里海を未来につなげていきます。そのためにも、“気づき”の多い能登との交流を今まで以上に活発にしていきたいと思っています。

